

《担当者名》澤田篤史

【概要】

運動療法学 で学んだ運動療法の基礎的理論をもとに、運動療法の基本的な考え方について学修する。また、病態、障がいに対してどのように運動療法を適応していくかについて学修することを目的とする。

【学修目標】

一般目標

運動療法の適応を理解し、基本的手技が行えるようになるために、運動療法学領域の知識、技術を身につける。

行動目標

1. 運動療法の特徴や適応、禁忌などについて説明できる。
2. 運動療法の介入効果に対するエビデンスや運動指標の基準値について説明できる。
3. 基本的な運動療法の手技について理解し、実践できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	運動療法のエビデンス	運動療法の介入効果に対するエビデンスを学ぶ 運動療法に必要な運動指標や基準値を学ぶ	澤田篤史
2	リスク管理	運動療法を行う上で注意すべき症状や所見について学ぶ	澤田篤史
3 }	病態・障がいに対する運動療法	内部障害に対する運動療法を学ぶ	澤田篤史
4			
5	病態・障がいに対する運動療法	軟部組織損傷に対する運動療法を学ぶ	澤田篤史
6	病態・障がいに対する運動療法	関節・骨組織の損傷に対する運動療法を学ぶ	澤田篤史
7 }	病態・障がいに対する運動療法	中枢神経系の可塑性と運動学習理論について学ぶ バランス障害に対する運動療法について学ぶ	澤田篤史
8			
9 }	病態・障がいに対する運動療法	痛みに対する運動療法について学ぶ	澤田篤史
10			
11 }	運動療法の基本的手技	運動療法における基本的手技について演習する	澤田篤史
15			

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験80% レポート課題20%

試験結果の詳細については適宜担当教員に確認すること。

【教科書】

キャロリン・キスナー 著 「最新 運動療法大全 基礎編 第6版」 ガイアブックス 2016年

【参考書】

松永篤彦 編 「運動療法エビデンスレビュー」 文光堂 2018年

高橋仁美 編 「即解 こんなときどうする！ リハビリテーションスタッフのためのトラブルシューティング」 中山書店 2011年

【備考】

運動療法学 で使用した教科書も持参すること

演習授業については、受講者を半数ずつのグループに分けて実施する

【学修の準備】

シラバスを確認し、授業内容に関連する内容について教科書や参考書を読むなど予習して授業に臨むこと。(40分以上)
授業後は配布資料、教科書や引用文献をもとに復習をしっかりとすること。(60分以上)

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

(DP3) 理学療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

澤田篤史(理学療法士)

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関における理学療法士としての実務経験に基づき、実践的な講義を行う。